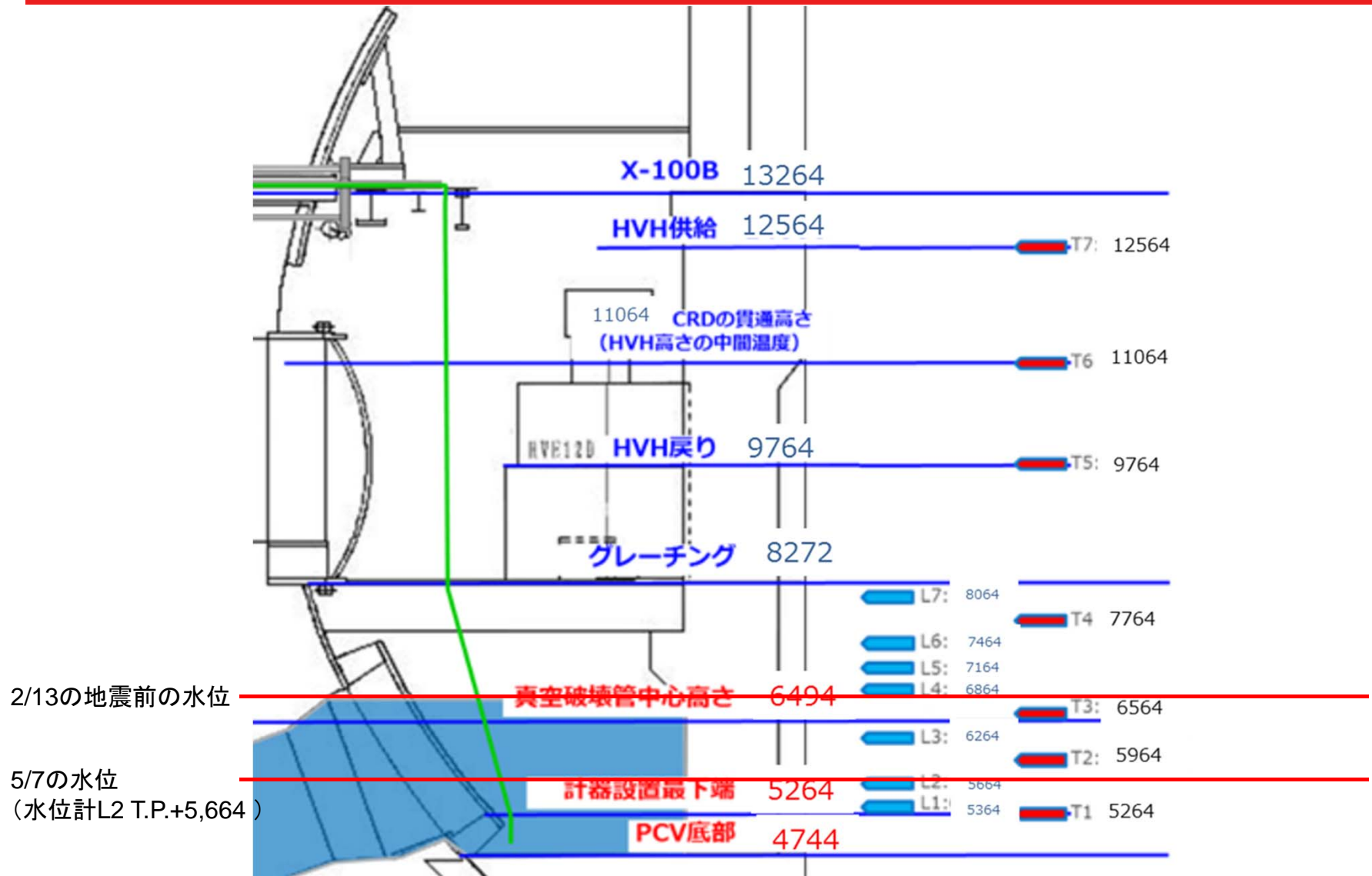


福島第一原子力発電所 1号機および3号機 原子炉格納容器における水位低下について（続報）

< 参 考 資 料 >
2 0 2 1 年 5 月 7 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

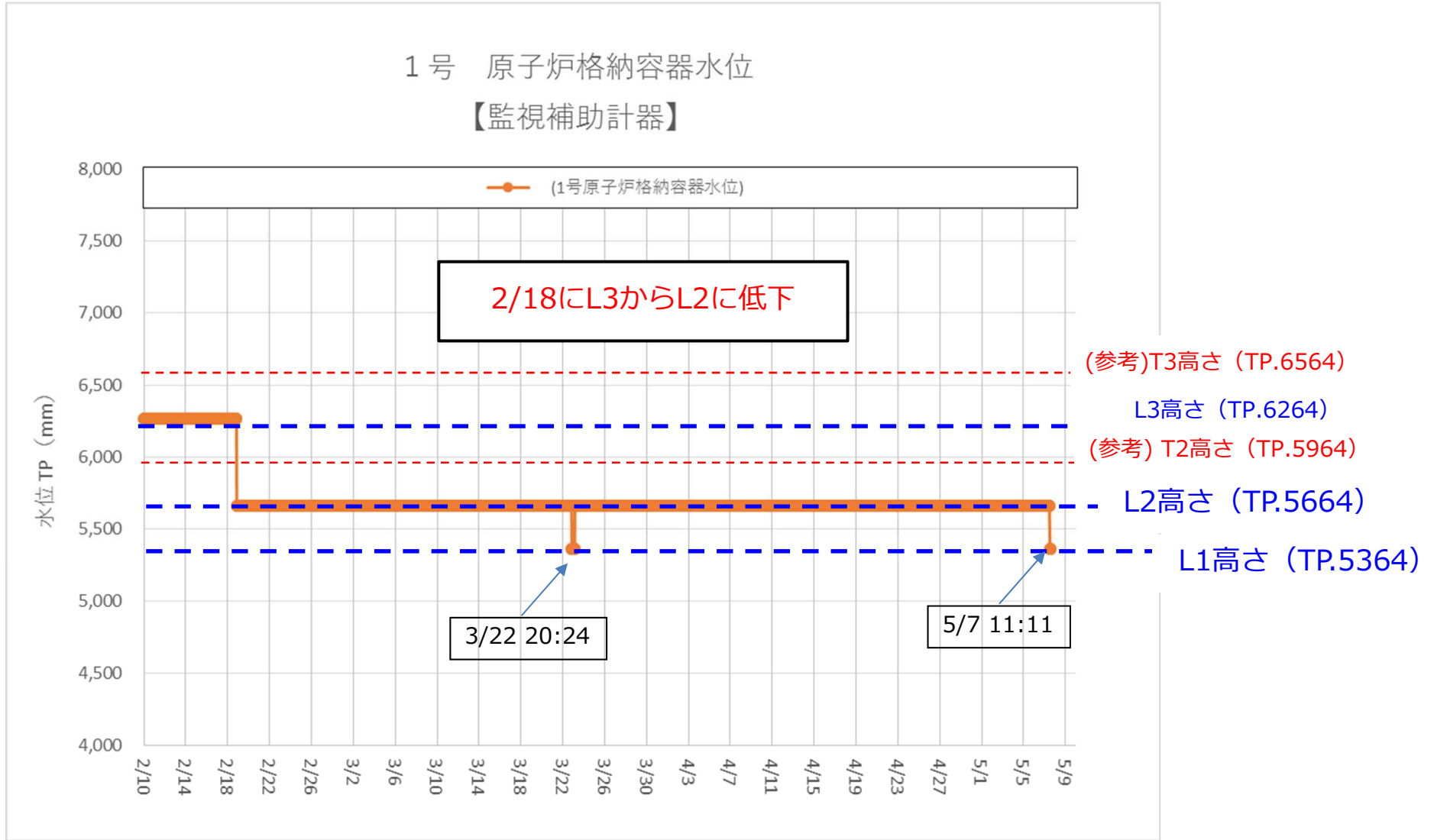
- 2月19日にお知らせした1号機および3号機原子炉格納容器（以下、PCV）水位が低下傾向にある件について、その後の状況をお知らせいたします。
- 燃料デブリの冷却状態に関する確認は、PCVの水位によらず、主に注水量、原子炉圧力容器底部温度および、PCV温度により判断しており、最終的にはPCVガス管理設備のダスト濃度も併せて確認を行っております。
- 1、3号機については、現状、上記パラメータに有意な上昇がないことから、PCV内の燃料デブリを安定して冷却できていることを確認しており、温度やダスト放出量といったパラメータに有意な上昇はありません。
- 一方で、PCVの水位については、水位計（接点式）による監視を確保するため、最下端にある接点式水位計「L1」を下回らないよう、念のため水位計「L1」の上部にある水位計「L2」を下回った段階で原子炉注水量を増やす運用としています。
- 2月18日に水位が低下傾向にあると判断して以降、水位計および関連パラメータについて慎重に監視を続けておりますが、1号機のPCV内の水位は、緩やかな低下が続き、本日（5月7日）午前11時11分、水位計L2の設置位置を下回ったと判断しました。（前回（3月22日）、水位計「L2」の設置位置を水位が下回り、一時的に注水量を増加した時と比べ、現時点で水位低下傾向が強まる状況は確認されておられません。）
- 同日午後0時43分、1号機原子炉注水量を以下のとおり変更しました。
約3.0m³/h → 約4.0m³/h
- 注水量増後は、PCV水位上昇の状況や関連パラメータの状況を慎重に監視しつつ、水位が温度計「T2」の設置位置を上回ったことを確認した後は、原子炉注水量を約4.0m³/hから約3.0m³/hに戻す予定です。
- また3号機については、計算値ではPCV水位は概ね安定した状況にあると考えておりますが、引き続き、傾向を監視してまいります。

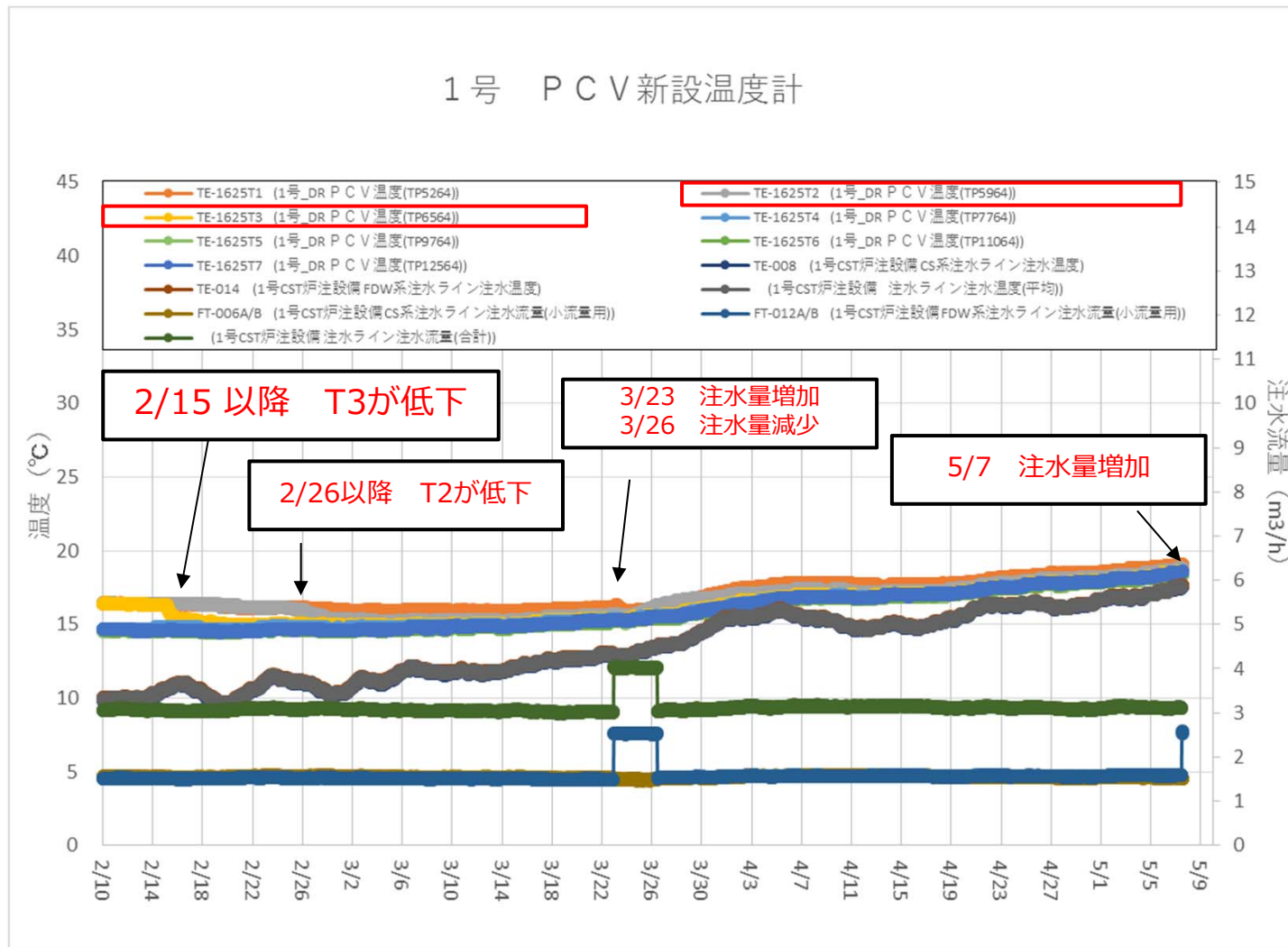
1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ

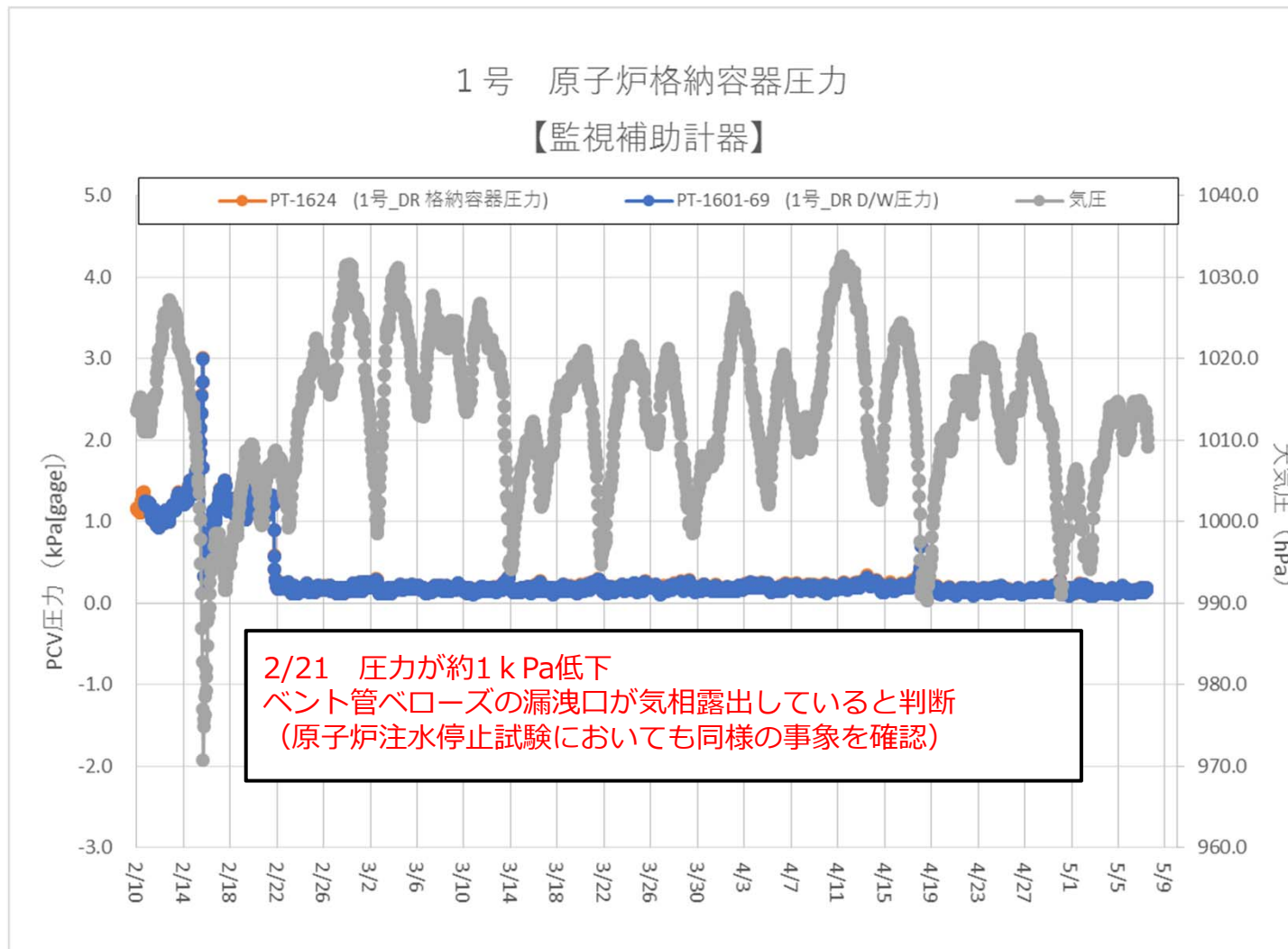


設置高さの記載は標高で記載 (T.P.)

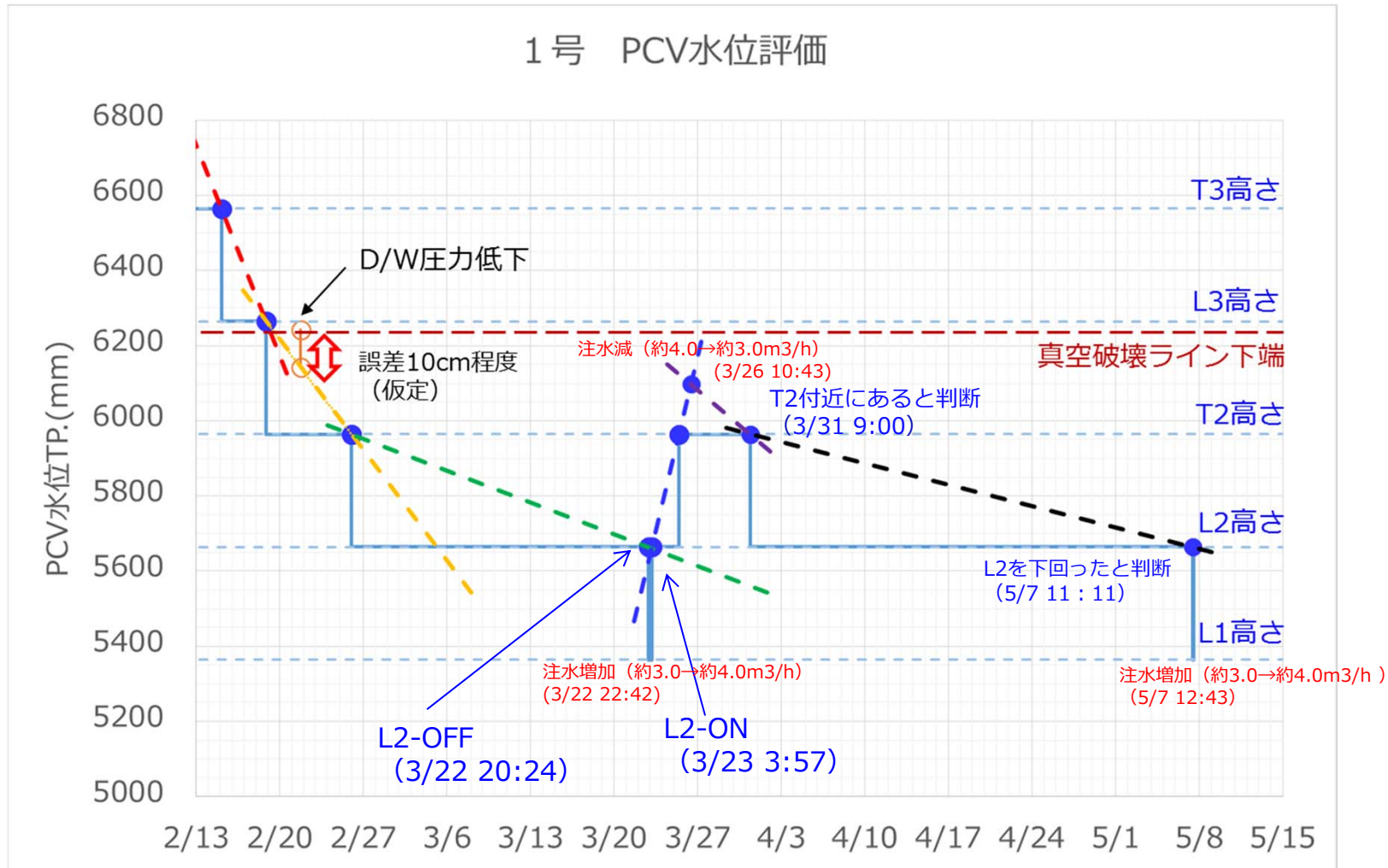
1号機 原子炉格納容器水位







※ 3号機はPCV水位低下の事象発生前後を通して、概ね一定（0.4kPa程度）で推移。



■ 判断基準と対応

- PCV水位が水位計 L 2 高さを下回った時点で注水量を + 1 m³/h 増加させる

■ 目的

- 水位計による水位監視を確保するため、接点の最下端である L 1 を P C V 水位が下回らないよう、念のため L 2 を下回った段階で注水量を増加することを目的とする。

■ 手順

- PCV水位が L 2 高さを下回った時点で、速やかに注水量増加操作を開始する。

< 1号機 >

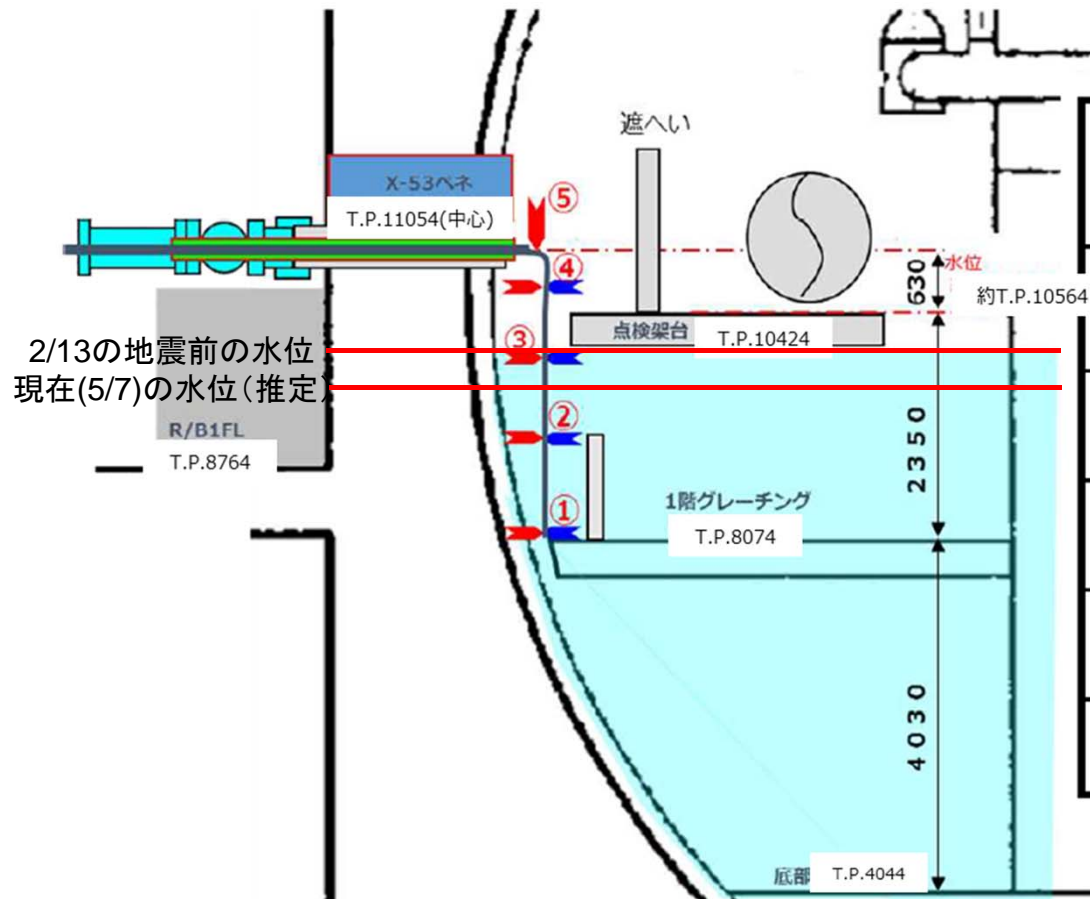
給水系	1. 5 m ³ /h	⇒	2. 5 m ³ /h (+ 1 m ³ /h)
炉心スプレイ系	1. 5 m ³ /h	⇒	1. 5 m ³ /h (変更なし)

(参考)

< 3号機 >

給水系	1. 5 m ³ /h	⇒	1. 5 m ³ /h (変更なし)
炉心スプレイ系	1. 5 m ³ /h	⇒	2. 5 m ³ /h (+ 1 m ³ /h)

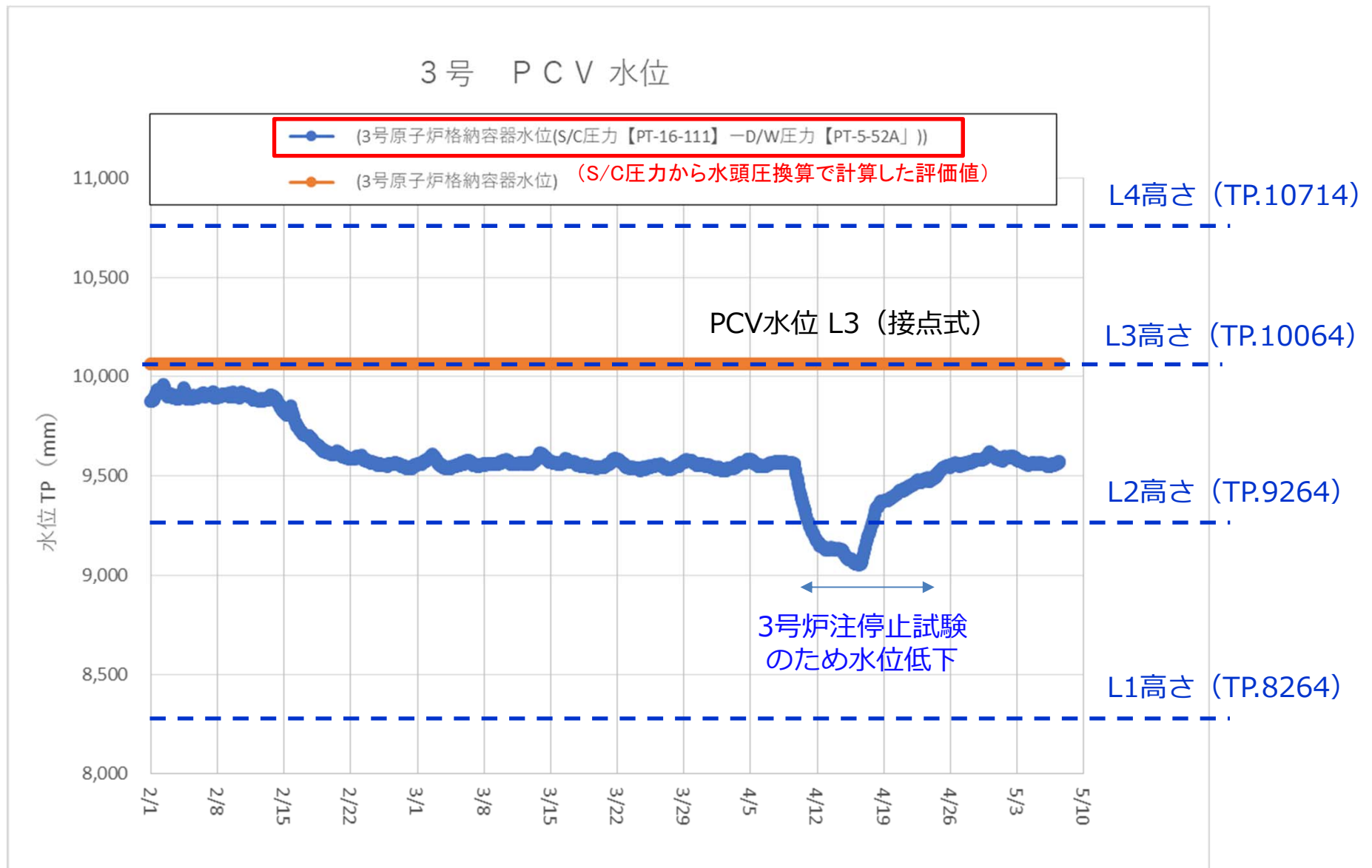
3号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ



計器位置	設置計器		設置位置 (T.P)
	温度計	水位計	
⑤	TE-16-005	—	約10964
④	TE-16-004	LS-16-004	約10714
③	TE-16-003	LS-16-003	約10064
②	TE-16-002	LS-16-002	約9264
①	TE-16-001	LS-16-001	約8264

高さはT.Pで記載

3号機 原子炉格納容器水位



3号 PCV新設温度計

